

《履修上の留意事項》インターネット接続したパソコンの利用環境を用意して、e-learningシステムを用いて自ら積極的に予習復習に取り組む。

《担当者名》長谷川 聡（非） haseg@hoku-iryu-u.ac.jp

【概要】

現場実習や卒業論文などを含むこれから学ぶすべての専門科目の学習と研究を支える科目である。本講では主としてコンピュータとコンピュータネットワークを、保健・福祉・医療・教育の実践研究に活用する方法について、国内外の現実的でリアルタイムの関連情報を活用して、「考える・発信する」ための情報処理過程を学修する。

【学修目標】

- 1) 情報リテラシーを理解するためにコンピュータとネットワークによる情報活用の技術と技能を習得する。
- 2) 保健・医療・福祉・教育情報の利活用技術を知り、「データに基づいて考える、発信する」技能を習得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	シラバスと学修方法を説明できる。 学生の個別学習ニーズを検討する。	長谷川
2	情報処理の意味1	informationとintelligenceの意味について検討する。	長谷川
3	情報処理の意味2	情報処理過程について検討する。	長谷川
4	問題発見の技法1	基本的集計資料を読み、そのか価値と意味を検討する。	長谷川
5	問題発見の技法2	行政統計資料を読み、その価値と意味を検討する。	長谷川
6	問題発見の技法3	メディア資料を読み、その価値と意味を検討する。	長谷川
7	問題発見の技法4	公開された図解・図説資料を検証し、その価値と意味を検討する。	長谷川
8	データの収集と加工1	一次数値資料を収集加工して論証する1 合目的データの検索と入手	長谷川
9	データの収集と加工2	一次数値資料を収集加工して論証する2 データ利活用方針の決定と前処理	長谷川
10	データの収集と加工3	一次数値資料を収集加工して論証する3 統計技法の選択と実行	長谷川
11	データの収集と加工4	一次数値資料を収集加工して論証する4 統計結果の読解と論証	長谷川
12	情報リソースの検証1	メディア情報を視聴して議論する。	長谷川
13	情報リソースの検証2	論説記事を読んで議論する。	長谷川
14	情報リソースの検証3	行政文書を読んで議論する。	長谷川
15	情報リソースの検証4	学術論文を読んで議論する。	長谷川

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

単元課題40%、期末課題60%。

【教科書】

「FACTFULNESS(ファクトフルネス)」ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド著 図書印刷

【参考書】

「考える 伝える 分かちあ う 情報活用力」本田直也(監修) noa出版

「活用事例でわかる!統計リテラシー ~数学が苦手でも大丈夫!~」noa出版(編著) noa出版

【備考】

社会福祉専門家としての情報リテラシーの涵養を目的とする講義と演習を行うので、各回のテーマに関連する他の社会福祉専門科目のテキストや配布資料、学生が保有するその他の資料を毎回持参することが望ましい。

【学修の準備】

1年時に使用した「情報処理演習」教科書の演習問題を受講前にやりなおしておくこと。(5時間程度)

パソコンとインターネットの基本的な利用の仕方を再確認し、できないところは同教科書を読み例題・演習問題をやり直して再学習しておくこと。(10時間程度)

統計学や統計実務に不慣れな場合は基礎教育科目「統計学」を復習したり、参考図書を購入して受講前に通読しておくこと。(20時間程度)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,3

【実務経験】

行政職員(福祉技術職)

【実務経験を活かした教育内容】

相談機関での実務経験を活かし、相談及び情報提供サービスに必要なニーズ調査や、専門情報の収集・分析・加工・提供あるいは発信に至る一連の情報処理作業の実際について、講義と演習を行う。